

御館の乱にゆかりの西巖寺!

島見町の中心、高台にある西巖寺は、栄玄という僧が開いた寺で、400年以上の歴史があります。現在、寺域は2,500坪の広さがあり、1,000軒以上の檀家をもつ名刹です。



西巖寺

■ 開祖は上杉謙信から城を賜った!

栄玄は、もともと手島清蔵景行という名の武士でした(四郎景行とも伝わる)。先祖は後藤という姓を名乗る京都の住人で、のちに関東に下り、関東管領に従ったと伝わっています。

1552(天文21)年に景行は、関東管領上杉憲政に従って、謙信を頼り、越後にやってきました。そして、謙信の居城春日山城に属する茶臼山城(上越市頸城区)を謙信から賜り、その城主になりました。

1578(天正6)年に謙信が没すると、二人の養子(景勝と景虎)が後継者をめぐって争いました。この「御館の乱」で勝利したのは景勝で、景虎に仕えていた景行は、茶臼山城から落ち延び、追っ手を逃れて10人の家臣とともに、船で島見浜に上陸し、周囲の土地を開拓

し、この地に定住したといわれています。

■ 武士をやめて僧になる!

その後、京都の本願寺の僧の教えによって、景行は仏門に入り、名を栄玄と改めました。そして1590(天正18)年、本願寺より寺号を賜って、西巖寺を創立したと寺には伝わっています。また新発田藩の記録では、創立は1593(文禄2)年と伝わっています。

当時の家臣の子孫は、現在も西巖寺の檀家となっているそうです。また、茶臼山城の近くには戦国時代から手島という地名があります。手島姓は、その地名に由来しているのかもしれませんが。

■ 浦ノ入の神社と西巖寺

切尾山神社(浦ノ入)には西巖寺と係わる言い伝えが残っています。

それは、「宝物であった親鸞直筆の『南無阿弥陀仏』の巻物を泥棒が盗み、岩船の浦菊峠に捨てて行った。しかし、夢の知らせにより訪れた西巖寺の開祖栄玄和尚が、持ち帰って寺の宝にした」というものです。巻物は、現在も西巖寺に大切に保管されています。



参道を登ると切尾山神社の社殿があります。